

第三種郵便物承認

平成 30 年 6 月 5 日

A J U 麦の会 & 麦の里ニュース

発行所・東海身体障害者団体定期刊行物協会

中区丸の内三ー六ー四三

みこころセンター4F

定価一〇〇円

AJU麦の会&麦の里ニュース

第 101 号 定価 100 円 平成 30 (2018) 年 6 月 5 日発行



平成三〇年六月五日 (毎週火曜日発行)

A J U 通巻 増刊第一三〇五三号

昭和五十四年八月一日第三種郵便物承認

障害者と福祉の歴史と学校教育

日本の国家による **本格的な障害者施策は戦後**から始まる。

敗戦を機に日本は、GHQ の指示の下で社会福祉に対する施策を打ち出すとともに、日本国憲法に福祉が位置付けられ、その結果、生活保護法（1946）、児童福祉法（1947）、身体障害者福祉法（1949）のいわゆる福祉三法が、さらに、福祉事業を民間が行う受け皿として社会福祉事業法（1951）が制定され、福祉の基盤が整えられた。

その頃、学校教育法（1947）の制定により、従来は **教育の対象とされていなかった**障害児に対し、障害等級などを設け、対象に制限があった。また障害児教育も障害のない子との分離別学のままであり、文部省が 1961 年に出版した「わが国の特殊教育」においても「**普通の学級の中に**、強度の弱視や難聴や、さらに精神薄弱や肢体不自由の児童・生徒が交じり合って編入されているとしたら、・・・（中略）・・・学級内で大多数を占める心身に異常のない児童・生徒の教育そのものが、大きな障害を受けずにはいられません。」と当時の考え方が率直に記されている。

オイルショック（1973）の影響を受けたこの時期、盲・ろう学校については既に 1948 年から学年進行の形で義務制が実施されていた。養護学校については、1973 年に義務制の実施を予告する政令が公布され、1979 年には実施に移された。これにより、これまで **就学猶予・免除の扱いとされてきた障害児**の全員就学体制が整えられることにはなったが、その反面、**世界的には**同時期に開始されていた統合教育、さらにはその後のインクルーシブ教育とは異なる原則分離の教育形態が障害児教育の基盤となった。

日 本の障害者に対する介護は家族中心であり、福祉・教育・医療を含む生活全般を **家族に依存**している。この深刻な家族依存は、家族に重い負担を課し、障害者に対する重大な人権侵害となり、あるいは **社会的入院・入所の要因**となっている。さらに、2006 年には学校教育法が改正され、従前の盲学校、ろう学校及び養護学校が特別支援学校に一本化される等、特別支援教育の推進が謳われるようになったが、原則分離の教育形態に変更は加えられていない。

（引用元：文部科学省 第 4 日本の障害者施策の経緯より一部抜粋）

それから、麦の里の歩み

1991 年 4 月 **養護学校卒業後**、授産施設などに入所が認められなかった重度重複障害者の、行き場のなかった居場所を作ろうと親御さんや元施設職員が集まり、民家を借り受け活動開始。1993 年 3 月「**どんなに重い障害があっても地域で生活したい**」という思いのもと、任意団体「障害者とともに歩む麦の会」を設立。**地域で在宅生活**を送っている障害者らに声をかけ作業部会を立ち上げる。地球の環境にも貢献できる「EM ぼかし」製造販売を始め、**行政、自治会、地域の人たちとの交流が深まり**、1994 年 5 月に空き家となっていた旧上品野小学校音楽室を借り作業所を開所。翌年 11 月には、愛知県・瀬戸市から小規模作業所運営費補助金が交付されることとなり、正式に「共同作業所麦の里」を開所。

瀬戸市を中心に、尾張旭市、豊田市、小牧市、春日井市、岐阜県多治見市などから次々に障害者が集まり社会福祉法人施設化への機運が高まるも、「土地」を自前で取得することが条件とされ、社会福祉法人認可が難航。2001 年 12 月に障害者とともに歩む麦の会の資金と役員さんの資金で土地購入を決定。本格的に社会福祉法人認可に向け動き出す。既存の施設からも断られるような、重い知的障害者や重複障害者を受け入れることを主な目的として社会福祉法人麦が 2003 年 7 月に認可。翌年 9 月に**身体障害者通所授産施設・通所療護施設「麦の里」**を開所。

麦の里の職員として、 得たものは何ですか？

職員の声を聞いてまとめてみました。

麦の里には、いろんな仲間がいます。仕事をばりばりと納期に向けて張り切る仲間、雨でもどんな天気の中でも廃品回収に出掛けていく仲間、元気に麦に来ることが目標の仲間など様々。もちろんペースもばらばらで、やりたいこと、思いも人それぞれ。そんな仲間と一緒に仕事をする中で職員は、仲間たちから多くのことを学んでいます。

【仲間との活動を通して…】

特に、仲間の素直で一生懸命な態度は、自分を見つめ直す機会になっています。自分の余裕の無さで、こちらの思いばかり押しつけて、反省することばかりです…自分の思いを伝えることが難しい仲間が多い中で、今どんなことを考えているのか、じっくりと見守り、待つ、またその人のペースで考えること、気持ちを汲みとることの大切さを感じています。麦で得た「待つこと」は、子育てにおいても、子供に対して急かすことがなくなり、イライラせずに待つことができるようになった職員もいます。

いろんな仲間との活動をしていくことで、何においても初めてのことだらけの中で、自分が常識だと思っていたことがそうではなかったりする環境の中で、大きな気持ちでいろんなことを受け入れられるようになってきています。仲間との関わりを通して、「変えられるものはかえていく、変えられないものは受け入れていく、どちらなのかを考えて、ずっと苦労している」という考え方も身につき、仲間だけでなく、職員などと接することができるようになっていきました。

また、職員としての仕事に対する姿勢以外にも、学ぶことは多くあります。麦の里には、仕事以外にも、お楽しみやレクリエーション、例会活動、役員会活動など、作業以外の取り組みもあります。なるべくお金を使わないで楽しみを作る方法、問題を解決する方法、お金以外の方法で物事を進める方法を思いつけるようになっていきます。

【日頃の介助を通して…】

他にも、麦の里では作業をすることはもちろんのこと、食事、トイレ、睡眠など日々の生活を支えることも大切にしています。毎日の介助を通して、人間として当たり前のことであるからこそ、人として豊かに生きるために、「食べて、飲んで、出して、寝る」が生きる基本であると学びました。

【人との関わりを通して…】

麦の里では、作業や活動の内容、一緒に仕事をする仲間も職員も、毎日変わります。誰が誰とどんなことをしたら豊かな活動になるのか、この仲間の活動は何を大切にしたいかなど、職員同士での連携をとりながら、話し合っていく力が求められます。いろんな仲間がいるのはもちろんのこと、職員の色だって人それぞれあります。そのいろんな人をまとめるために、リーダーシップが身についてきています。

最後に、麦の里の職員として得られた1番のものは、仲間たちの笑顔です。落ち込んでいるときでも「元気あげるよー!」とパワーをもらい、一緒に「楽しい時間」、小さな“できた”を共有することで、職員達も自然に笑顔になっています! 仲間たちのパワーは、職員よりもすごく大きいです。仕事をする上で、大変なことはもちろんあります。それでも毎日の仲間の笑顔が職員の原動力になっています!!

求人のお願い

麦の里には、個性豊かな仲間たち、職員がいっぱいです!!

毎日、毎日いろんなことが起きています(*^▽^*)

小さな“できた”に、みんなで喜んだり・・・

ハプニングが起きたら、みんなで悩んだり・・・

仲間と「共に歩む」を大切に、「夢はでっかく、歩みは一步步」・・・

麦の里は皆さんを待っています!!

**こんな私達と、麦の仲間に、
会いに来ませんか?**

2018 年度のはじめに ～T さんのお母様を偲んで～

渡邊 照予

知的障害の T さんは、お父様が病死された後、母親と 2 人で 25 年以上、自宅で「鋳込み」の内職をしながら生活をしてこられました。けれども瀬戸の窯業が衰退して内職が減り、家ですることが無くなったのを苦にして、母親の M 子さんが麦の里に相談に来られました。それから T さんは麦の里の仲間となりました。今から 23 年前、T さんが 45 歳、お母様が 71 歳でした。

T さんが麦の里に通うと決まった時の M 子さんの言葉は今でも覚えています。『良いかい T さん。麦の里のみなさんが、「T さんが(麦に)来てもええよ」と言ってくれたから行ってもいいけど、「お前なんか来るな」と言われたら行けんようになるからね。そしたら、辞めないといかんよ。』と、本当に丁寧に、トクトクと言い聞かせてみえました。

小柄な M 子さんは腰を曲げて歩いていたので本当に小さく見えたが、でも手はとても肉厚でがっしりとして「よく働く、大きな手」でした。そして息子の T さんも同じ「よく働く、大きな手」をしています。M 子さんは、大事な場面ではいつも T さんのことをさん付けで呼びます。重くて大変な「鋳込み」の内職仕事でも、M 子さんはきっと T さんを頼りにしながら母 1 人子 1 人で頑張ってきたのでしょう。麦の里で、サボらずにせつせとボカシの作業に取り組んでいる T さんの働きぶりから、そのことが見て取れました。あれから 20 年以上、T さんは麦の里で、まさに「共に」働いてくれています。

その M 子さんが、この 4 月の終わりに 94 歳で他界されました。

亡くなる 7 日程前に、T さんと一緒に施設の M 子さんのお見舞いに伺いました。その時 M 子さんは本当に穏やかな表情で、T さんをじっと見ながら「この人のことが気になって…」と何度も何度も口にしていました。私は色白になった M 子さんの大きな手を握りながら、「大丈夫だよ」と言い続けることしかできませんでした。いつかはこんなお別れがくると覚悟はしていたのですが…。

活動を始めて 25 年。古くからの仲間たちは 30 代 40 代になり、彼らを取り巻く家族も、そして私たち職員も同じように歳をとりました。旗揚げしてから「ふれあいバザー」や「餅つき大会」等、地域で長年頑張ってきた「麦の会」の活動もこの 10 年間は規模縮小を余儀なくされています(高齢が理由ではありません)。次世代の若い母組は、共働きだったり親の介護で忙しかったり…以前のように『みんなで協力し合って資金を作る』ために集まることも難しくなり、活動の継承が問題になっています。

でもこのまま尻すぼみで良いと思っているお母様は 1 人も居ないはずです。『我が子の将来の為に』という気持ちは変わらないはずです。であれば、今までとは違う新しい活動スタイル、新しい協力関係づくりを、できる人たちで本気で始めることが必要なのではないでしょうか。

親を見送る立場の若い仲間たちと、これからも「大丈夫だよ」といえる「麦の里」「麦の会」であるために、できる限りことをしていこうと、あらためて思っています。

最後になりましたが、M 子さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。



仲間紹介

こ ば や し え り か

小林恵里佳さん

麦の里にきて、ちょうど **10** 年！早いものですね～

恵里佳さんは家族のことが大好きで、「お母さん」という言葉だけでも過剰に反応してウキウキしちゃうくらい。

初めて会った時に、お母さんが「恵里佳はみんなに、愛をふりまいてくれるの」と言っていたのが印象的でした。

今ではその意味もわかり、療護だけではなく作業室にトコトコ出向いて、仕事をしている仲間に笑顔でエールを送ってくれます。恵里佳さんが笑うと、自然と周りも笑顔になります。

特に女性の職員やパートさんにはとびっきりの笑顔を見せてくれ、「あはは！」「あへあへ！」とよくおしゃべりをしてくれます。それでも体の中からみなぎる愛を体で表現してぴょんぴょん飛び跳ねて一緒に歩くことも大変なくらい。でも男性職員が「えりかちゃ～ん！」と声をかけても、クールな表情で歩いてくれます。そのギャップにみんなも慣れました。

カーテンの向こうに大好きなパートさんがいると隙間から顔をチラッと覗かせる仕草が可愛らしく一緒に歩いていると、食堂の鏡の前で必ず立ち止まり、自分の顔をじーっと見つめて、そしてにっこり笑い満足気。女の子だなあと微笑ましくなります。

人見知りをする恵里佳さんにも、お友達のような存在の仲間が出来つつあります。療護の仲間 CさんとNさん。じーっとその仲間を見て時には手を伸ばしてスキンシップを取ろうとしています。言葉のない恵里佳さんにとって、スキンシップは大切なコミュニケーションのひとつです。

恵里佳さんは興味を示す物や人に手を伸ばして触ろうとしますが、指先の力加減が難しく時には痛い愛情表現になってしまうことがあります。指よりも手のひらを意識してほしくて、恵里佳さんの手のひらと職員の手のひらを合わせて刺激することを意識してきました。最近では手のひらを少しずつ使えるようになってきて手を繋ぐことが出来る時もあります。

これからも恵里佳さんがどんな女性になっていくのか楽しみです。

(き)

第三種郵便物承認

平成 30 年 6 月 5 日

A J U麦の会&麦の里ニュース

□振込用紙

□振込用紙

職員新人自己紹介



さかもとせいじゅん

坂本聖純さん

4月2日から正職員として麦の里で働かせていただいております。
好きなことは旅行、映画鑑賞、歌うこと、ピアノを弾くことです。
現在は豊田市西中山町に住んでいますが、生まれは宮崎県都城市
です。妻と3才の娘と1才の息子と暮らしています。

麦の里に来る前、前職はビルの総管理業を3年勤めましたが、それ以前はトヨタ系の工場にてライン作業、食品工場にて検品作業と、介護とは無縁の仕事ばかりでした。これから仕事を覚えていく中で、皆さんにご迷惑をおかけするとは思いますが、一生懸命頑張るのでよろしくお願い致します。



いながき み き

稲垣美紀さん

4月から週3日（火・水・木曜日）勤務させて頂いております、
パート職員の稲垣美紀と申します。よろしくお願い致します。
全く未経験の業務内容で、皆さんの役に立てる日が来るのか不安は
ありますが楽しくて不思議な感じです。朝、「美紀さん、おはよう、
元気？」と聞かれたならそれだけで元気になれる、嬉しくて
たまりません。心からの「ありがとう」を伝えていきたいです。

これまで長く勤務してきた職場を離れたのは、養育里親（事情があり自宅で暮らすことができない子供を児童相談所からの依頼で預かり、保護をするような活動）をする為です。

お母さんみたいにお弁当を作り学校へ送り出します。日々の暮らし方の手本になり、いつかその子供達が自分なりの家庭を築いていく参考になればと思っています。

瀬戸に住んでいつの間にか30年になります。二人の子供は独立し、一人は東京、一人は海外に赴任中で其々の人生を歩んでいます。親の役目は果たせたのかと思い、甥からのプレゼントの犬（トイプードル3才）を猫可愛がりしています。

趣味はお風呂掃除と言いたくなるほど、毎日ピカピカに磨いています。実際、家事全般は苦手でお料理も美味しく作れていないのかもしれませんが。そんな私は麦の里の給食を楽しみにし、仲間の皆さんと楽しい時間を過ごしたくて頑張っていこうと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。



麦の里の日常風景



中品野町 グループホーム七色の麦 思い出の写真館

花

見を 4 月 3 日、桜が散るギリギリでしたが、でかけています。桜の木の下に敷物を敷き、お菓子とお茶を準備し、みんなで乾杯！お菓子やお茶をつまみ、ゴロゴロと横になったり、公園の端から端まで走って遊んだり、楽しく過ごしました。（たら）



音

楽療法

4 月 18 日、名古屋学院大学から久々の増田先生との音楽療法 in 七色の麦でした。

「どうも～みなさん～♪」とマンドリンを手に登場！仲間たちも嬉しそうに聴いていました。久々で、皆さんもウッキウキ～！ボランティアの学生さんも来て、素敵な取り組みでした。

印象的なシーンを一つ。「チェロを弾く人～」と言うと、珍しく K さんが自分から手を挙げました。手で弦を弾いていましたが、みんなが使っていた、弓を手に取り真剣な顔でその弦を目掛けて弾く懸命な姿がありました。そこで増田先生とのセッションも始まり、そこに K さんのメロディが生まれました。イワンコフにとってはとても心地よい音色でした。こんな素敵な取り組みがこれから七色で、もっと増えたらな！（笑）（イワンコフ）



さよなら、岩外さん。美味しいご飯をありがとうございました！左 3 番目



職員のつぶやき

麦の里で働き始めて 15 年…。

麦の里に初めて見学に来たのは旧麦と言われている廃校になった学校の一室でした。建物を見たとき「本当にこの場所で合ってるのかなあ」と思うほど古い建物で、半信半疑で扉を開けたことを思い出します。

私の周りにみんなが集まってくれ、自己紹介をしてくれました。障害に関係なく、みんなが一緒に生活していて、アットホームな雰囲気が印象的でした。

旧麦には土間と 1 フロアしかなく、そこに仲間が 13 名ほど通っていました。

外に出ればすぐに運動場があり、その向こうにはゆるやかな川が流れていて、K さんはその川に葉っぱを落として葉っぱが流れていく様を見るのが好きでした。

T さんは、お昼ごはんの後に注文をとって、散歩がてら近くの自動販売機まで缶コーヒーを買いに行く事を楽しみにしていました。

運動場に足踏み式の缶潰し機を出して、ベンチに座って缶潰しを楽しみにしていた K さんと A さん。今でも外作業が好きなのは変わらずです。

療護の仲間もみんな一緒に生活し、作業していて、毎日のんびりとした時間が流れていました。
(ベテラン職員は忙しくしていたのかもしれませんが…私がその忙しさに気づいていなかったのかもしれません)

働き始めて半年後、今の社会福祉法人 麦 麦の里が出来、みんなで引っ越しをしました。少しずつ仲間が増えていき、胃ケアの仲間も初めて受け入れ、職員も増えていきました。

15 年経った今では 38 名の仲間と 50 名前後の職員とパートさん。3 年前には、グループホームもでき、仲間の居場所も増え、そこでは環境の変化にとまどいながらも成長している仲間と職員の姿が見られます。

今となっては、旧麦のことを懐かしんで話が出来る職員も減りましたが、今居る職員やこれから一緒に働く職員にも、大切にしてきたことを引き継いでいけるように努力したいと思います。

前号の機関誌で“家族からのラブレター”を特集しました。反響がとても良く、続編はないの？と聞かれるくらいでした。

普段、“家族の想い”はなかなか直接伺う機会もなく、また文字にして伝える機会もなく、ご協力して下さったご家族の方たちに感謝です！我が子への深い愛がとても伝わる、よい企画となりました。

その中の親子での写真を載せたお母さんが、5 月に亡くなりました。最後の親子写真、機関誌を通して見てくれていたかなあと思っています。

(き)

職員募集続編…皆さんは、

生活支援員という職業を知っていますか？

“怒る”と“叱る”という違いを皆さんはご存知ですか。大抵の方があまり意識して使っていない言葉かも知れません。“怒る”ということは自分の意に反したことに憤慨する感情で、大抵の場合、後悔がまとわりつきます。一方“叱る”とは愛情が伴い、相手のことを思いやる行為です。

普段仲間のために、感情にまかせてついつい怒ってしまうことがある中で、後で振り返って、本当に仲間に伝わっていたのかを考えています。あの時、仲間はこんなことをしたかったのではないだろうかと反省します。仲間のことを思って、怒るを叱るに変えていく、また“気づき”を大切にしていけることが職員として求められます。私たちは日々、自分自身の言動と仲間との出来事を振り返る時間を持っています。

麦の里では、“働いてもらう”とか“働かせる”ではなく“共に働く”ということを大切に過ごしています。

日常の中に潜む当たり前のこと、人が人を育てる、育て合う、育むという、誰もが共存し合う社会の中において、仲間の“発達”を意識し、施設という社会の場において、生活支援員は資格のない仕事だが奥深く、発達や人間性を共に育んで行くことのできる職業です。

□お礼のコーナー

〈敬称略 順不同〉

◇◆麦の会の会員・賛助会員になっていただきました◆◇

会 員 更 新：村上直哉 菊池 誠 阪口千加 村松 剛 谷口奈穂 光川幸一
山田克己 山中勇樹 村松勇哉

賛助会員更新：山本茂乎 谷口知広 加藤茂生 山田朝乃

◇◆バザー用品等を提供していただきました◆◇

アクシス 梶田鉦子 よしかねみさこ

◇◆社会福祉法人麦 及び 施設麦の里へ寄付金&物品をいただきました◆◇

寺田浩二 水野すみ子 宮下洋子 高橋仁布子 光川幸一（由希子） 麦の穂
瀬戸ライオンズクラブ ソロプチミスト瀬戸 匿名希望 6 名

—お詫びとお断り—

賛助会員の申し込み、バザー用品、また寄付金などのご協力を頂いた方については、事務処理の都合上掲載が次号になる場合があります。申し訳ございませんが、御了承下さい。（4月10日現在）

正職員・パート短時間アルバイト大募集!!

(夜勤、遅番、可能な女性也大募集!!)

社会福祉法人麦では、新事業として第二グループホーム & 第二麦の里を開設する予定です。それに伴い職員を募集しています。麦の里をはじめ、開設する施設でのスタッフを男女問わず募集しています。詳しくは麦の里までお問い合わせ下さい!!

たとえば・・・早朝2時間のみ・夜間2時間のみ(週1でも可)

※勤務時間、勤務日数は相談に応じます!

今後の麦予定

6月

- 2日 麦の会 定例総会
- 5日 床屋デー
- 10日 山口も～やっこふれあい祭
- 17日 ウェルフェアボーリング大会
- 21日 理事会・評議委員会
- 23日 麦の会 役員会
- 26日 北山地区廃品回収

7月

- 7日 麦の会 定例会
- 8日 ふれあい朝市出店予定
- 26日 シビックマルシェ出店予定
- 28日 麦の会 役員会
- 31日 北山地区廃品回収予定

やすらぎ会館 木曜市 開催日

* 6月 *

* 7月 *

- | | |
|--------|--------|
| 7日 午後 | 5日 午後 |
| 14日 午前 | 12日 午前 |
| 21日 午後 | 19日 午後 |
| 28日 午前 | 26日 午前 |

※時間は変更になる場合もあります。

午前 : 10 : 00 ~ 11 : 30

午後 : 13 : 30 ~ 15 : 00

会場

住所: 愛知県瀬戸市川端町 1-31

電話: 0561-84-2011

パン、炭、EMボカシ等仲間と接客販売しています。
是非仲間たちに会いにきてくださいね。

障害者とともに歩む

生活介護事業 及び

就労継続支援事業 B 型

共同生活援助事業

〒480-1214 愛知県瀬戸市上品野町 1354-12

電話(0561)41-4124 / FAX(0561)41-3766

Mail nakamanowa@mugisato.or.jp

麦の会

麦の里

七色の麦

編・集・後・記

早いもので、もう6月になりました。

梅雨のじめじめにも夏の暑さにも弱いですが、

「元気あげる～!!」と、仲間たちから毎日

パワーをもらって乗り切っています(^▽^)

皆様もお身体にお気を付け下さい! (やな)